

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670600214
法人名	有限会社 精祥
事業所名	グループホーム はまゆう
訪問調査日	平成 21年3月18日
評価確定日	平成 21年4月20日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670600214
法人名	有限会社 精祥
事業所名	グループホーム はまゆう
所在地	阿久根市脇本6778番地39 (電話) 0996-75-1122
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成 21年3月18日

## 【情報提供票より】(平成21年3月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	12 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 14.4 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	7,200 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	1 名	要介護4	6 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.9 歳	最低	67 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	脇本病院 よしもと歯科
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、海を望むのどかな田園風景の中に建てられており、ゆっくりとした時間の流れを感じさせる環境である。ユニット間で利用者や職員が行き来して交流が多く、食事や入浴の際、互いに協力しあうことで利用者の希望に柔軟に対応することができる。管理者および職員は、はつらつとして活気があり、利用者にとっては家族のように何でも言える関係が築かれているため、安心して生活することができる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	特に指摘事項はないが、評価の過程で気づいたホームの環境整備について、職員間で検討して改善に向け取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、管理者とチーフがまとめたものを、職員間で現状と比較してどうか意見交換した上で最終のまとめを行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4)
	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、ホームの活動状況や外部評価結果および自己評価等について報告、検討されている。老人会やボランティアグループからも出席していただき、さまざまな意見交換がなされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会を設けるとともに、面会時には必ず声を掛け、いつでも何でも言える雰囲気づくりをしている。いただいた要望等については、職員間で話し合いがなされ対応している。場合によっては、関係者を交えての説明がなされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入して、地域住民との交流を図っている。中学校の運動会や発表会の見学に出かけたり、職場体験で生徒たちがホームを訪れたりして交流を深めている。

## 2. 評価結果詳細

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より、地域の中での暮らしを意識した理念をつくりあげている。また、理念に基づき利用者一人ひとりに合ったケアを心掛けている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝礼で理念を唱和しており、常に意識しながらケアに取り組むように努めている。また、理念に基づくケアが実施されているか、月1回のミーティングにおいて確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して、地域住民との交流を図っている。中学校の運動会や発表会の見学に出かけたり、職場体験で生徒たちがホームを訪れたりして交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、管理者とチーフがまとめたものを、職員間で現状と比較してどうか意見交換した上で最終のまとめを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、ホームの活動状況や外部評価結果および自己評価等について報告、検討されている。老人会やボランティアグループからも出席していただき、さまざまな意見交換がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは行き来する関係ができており、支所を訪れて書類申請や状況報告を行うほか、担当者も近くまで来た際にはホームに立ち寄り現状を聞くなど、質向上に向けてともに取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	3ヶ月毎に定期的なホーム便りを発行し、ご家族へ郵送している。生活を送る中での気づきや異変については、その都度、連絡を取り報告するようにしている。金銭管理については、毎月出納帳の写しを郵送しており、面会時に原本を確認してもらいサインをいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けるとともに、面会時には必ず声を掛け、いつでも何でも言える雰囲気づくりをしている。いただいた要望等については、職員間で話し合いがなされ対応している。場合によっては、関係者を交えての説明がなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間では、1日の中でも食事を一緒に作ったり、レクリエーションを合同で行うなど頻りに交流があり、職員・利用者ともに顔馴染みの関係が作られているため、異動による利用者への影響はさほどみられない。新たな入職者については、引継ぎ期間を2週間程度設けて徐々に馴染めるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画は立てられていないが、法人内外の研修に勤務体制を考慮しながら参加している。また、法人内において年2回の事例発表会があり、交代で担当を決めて取り組んでいる。	○	研修機会も多く、職員も積極的に参加したいという思いがあるが、自ら勤務の状況を見ながら参加を決めている。職員の立場や経験、習熟度に応じた研修計画を立て、それぞれが段階的に力をつけられるような取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム連絡協議会において、勉強会や交流会が年4回程度行われており、勤務状況を見ながら参加している。また、地域のホームと交流機会を持ち、相互訪問や電話連絡・相談が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学していただいたり、ホームから職員が出向き関係を築くことで、スムーズに入居できるように工夫している。入居後しばらくは、ご家族に頻回に面会してもらうように促し、安心感を持ってもらうように働きかけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の暮らしの中で一緒に行動することによって、喜びや悲しみ、怒りといった感情を共有するように努めている。また、利用者から家事についての工夫や農作業の手順等について学ぶこともある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活暦を基に、暮らしの中での表情や言動、態度を見ながら、その時々においてどのように思い、どうしたいのかを汲み取り対応するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画については、利用者およびご家族の意向に沿うよう立案され、サービス内容をご家族へ説明して意見をいただくようになっている。また、職員間でもミーティング時に計画についての意見交換が行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを行い、アセスメント用紙を用いて利用者の状態確認と計画の見直しを行っている。その後、ミーティングにて内容についての話し合いがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者およびご家族の状況や希望に応じて、医療機関への受診介助や自宅までの送迎等を実施している。また、理美容の受け入れや支援も行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの都合に合わせてかかりつけ医を変更することではなく、これまでのかかりつけ医を継続して利用できるように支援している。受診介助を行った際は、診断等の結果をご家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化して医療行為が必要になった場合や寝たきり状態となった場合、現状では対応が難しいことを入居時に利用者およびご家族に説明している。利用者の状態変化時には、その都度かかりつけ医の意見を聞きながら、その後の対応について検討されている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者にとってどのようにされるのが嫌であるか、言動や表情、行動から汲み取り、それを職員間で情報共有して対応している。記録物の管理については、チェックシート等のように頻回に記録しなければならないものが、リビングの棚に置かれている。	○	一部の記録物について、誰でも見ることができる状態にあるため、個人情報保護の観点から、より適切な保管方法を検討していただきたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活時間は決めてあるが、利用者のペースや希望に応じて、臨機応変に対応されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は担当者が作成しているが、利用者の希望があった場合や季節の食材が手に入った場合は、変更したり追加したりして柔軟に対応している。調理や片付けについては、その作業が好きな方と職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、ユニット毎に1日置きに行っている。希望があれば、入浴日でなくても調整して入浴できるように対応している。入浴拒否のある方については、時間を置いて声かけに工夫しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意分野を活かせるように、家事や農作業時に声かけて、積極的に参加できるような場面作りがなされている。また、カラオケの好きな方や晩酌される方についても柔軟に対応することが可能である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周囲を散歩したり、買い物に出かけるなど、日常的に外出できるように支援している。季節や気候に応じた外出機会を設けて、利用者の歩行状態に関わらず、なるべく戸外に出られるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関や居室の鍵はかけていない。玄関に鍵をかけずに安全な生活を送るにはどのような対策が必要か、事例検討して問題解決に取り組み、現在に至っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署を交えての火災訓練を年2回、自主避難訓練を毎月実施しており、職員がいつ、いかなる場合にもすぐに対処できるように訓練している。地元の消防団や自治会長の参加もあり、地域の協力体制も整っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量については、食後すぐにチェックして記録管理されている。必要に応じて、かかりつけ医の意見も聞いている。栄養バランスや分量については、関連法人の管理栄養士に、月1回程度、指導や助言ももらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビを前にしてソファが置かれており、大勢で顔を見ながら会話したり、少人数で語り合うことができるスペースなど、さまざまな場面に応じて利用できるように、家具の配置が工夫されている。ホーム全体が、温かい家庭的な雰囲気に包まれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、洗面台やダンス、ベッド等が設置されており、利用者の希望に応じて家具等の持ち込みもある。家具の配置は自由であるが、身体状況に応じて危険の無いような配置を提案し、利用者およびご家族と相談しながら居室づくりを行っている。		